

アプローチとアクセスボックス

問1 ✓ 学習の内容 重要古語の意味

- A 念ず(動) ①祈る。 ②がまんする。
- B 術なし(形) ①どうしようもない。 ②つらい、せつない
- C あさまし(形) ①驚きあきれた、意外だ。 ②興ざめた、情けない。 ③あさはかだ。

問2 ✓ 学習の内容 アクセス10 接続助詞の用法

③「に」⇨逆接確定条件「が」⇨、④「に」⇨順接確定条件「ので」、⑤「に」⇨単純接続「〜ところ」、⑥「で」⇨打消接続「〜ないで」、⑦「を」⇨順接確定条件「〜ので」。

正解は、③⇨イ、④⇨ア、⑤⇨ウ、⑥⇨エ、⑦⇨ア

問3 ✓ 学習の内容 アクセス10 接続助詞を含んだ文の現代語訳【発展】

ア が⇨逆接確定条件。〜けれども、〜のに
 「し」は過去の助動詞「き」の連体形。
 イ を⇨逆接確定条件。〜けれども、〜のに
 「ける」は過去の助動詞「けり」連体形。
 ウ で⇨打消接続。〜ないで、〜なくて
 「さては」は「それでは」の意、「に」は断定の助動詞「なり」連用形。

アクセス10 プリンス 選択肢の現代語訳と出典

ア 昔から多くの白拍子がいたけれども、このような(すばらしい)舞はまだ見たことがない。(平家物語)

訳通っていく道までも別々になさったので、

A⇨リード文から、

「三兄弟のそれぞれが行く場所を分ける。」

← A だけではなく、その上Bまでも

B⇨道隆は右衛門の陣より出でよ。道長は承明門

より出でよ。

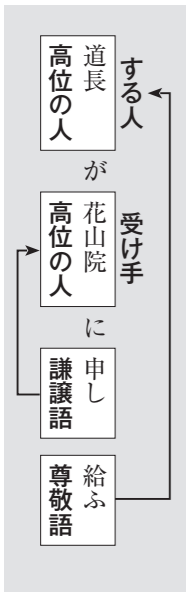
「目的地までの道までも別々にする。」

問6 ✓ 学習の内容 敬語について、誰から誰に使われているか考える

(1) 「申し」は、ここでは「言ふ」の謙讓語「申す」の連用形。「言う」という動作の受け手である花山院に対する敬意を表している。

また「給ふ」はここでは「申す」について、尊敬の意を添える補助動詞「給ふ」の連体形。「申す」という動作をする人である道長に対する敬意を表している。

つまり、一つの動作(ここでは「言う」という動作)について、種類の違う二つの敬語(ここでは謙讓語と尊敬語)を用いることで、二者(ここでは院と道長)に対して敬意を表すことができる。このような敬語表現を二方向の敬語とか二者に対する敬語(アクセス20)参照という。



イ 八重桜は奈良の都にだけあったのに、このごろ世間に多くなっているようです。(徒然草)
 ウ それでは扇の骨ではなくて、くらげのであるようにだ。(枕草子)

問4 ✓ 学習の内容 古時刻と現在の時間

古時刻については、**語句解説**参照。時刻を表す際には、二十四時間を十二支で等分し、零時前後を基準として二時間ずつ(この二時間を「一刻」という)振り分ける方法が一般的であった。そして、この一刻をさらに細かく分けて示したいときには、「二つ」「三つ」「四つ」と四等分して表していた。「子四つ」の場合、「子」(午後十一時〜午前一時ごろあるいは零時〜午前二時ごろとする説もある)の刻の四つ目ということだから、午前一時とするウが正解。

問5 ✓ 学習の内容 「さへ」の内容にあった意味を選び出す

アクセス14に整理する副助詞「さへ」について問う問題。「さへ」は添加(…だけでなく)その上(までも)を表す。ここでは「それをさへ分かつたせ給へば」とあるので、花山院は、あるもの(A)を分けるだけでなく、「それ」(B)をまでお分けになったというのである。直前の院の発言から(B)を考える。

品詞分解と現代語訳

格助 副助 夕四末 尊敬用 補助・八四・已 接続
 それ一を「さへ」一分かた「せ」給へ「は」

(2) 「つれなし」は、(なんでもない様子だ)を語の基本的意味とする重要語。必ずしも(冷淡だ)という意味になるとは限らない。

ここでは肝試しに行ったというのに、全く顔色も変えずにもの言う様子を表現しているのである。(1)から「申し給ふ」を加えて、「平然と申し上げなさるの」と訳す。

問7 ✓ 学習の内容 本文の内容との合致問題

選択肢判定ポイント

- ア 帝の命を受けて、中の関白殿は承明門から、入道殿は右衛門の陣から出て行った。
中の関白殿 (X) 入道殿 (X)
- イ 中の関白殿は、軒に届くほどの丈の高い人物を見つげ震え上がってしまった。
中の関白殿 (X)
- ウ 粟田殿は、なんとも得体の知れない声を聞いて、無我夢中で戻ってきた。
- エ 入道殿は何事もない様子で、行った証拠として柱の下を削ったものを差し出した。

復習問題の解説

① 逆接の接続の働きをする「と」「ど」「ものから」について、仮定条件か確定条件かを識別する問題。**アクセス9**の識別方法をしっかり把握しておくこと。

① カ行四段動詞「吹く」終止形に接続するところから逆接仮定条件。
 ② 過去の助動詞「けり」已然形に接続するところから逆接確定条件。

③ サ変動詞「す」連体形に接続するところから逆接確定条件。体言「もの」+格助詞「から」ではないので注意する。

② 逆接仮定条件か逆接確定条件かを判断し、それを現代語訳に反映する問題。

① サ行四段動詞「過ぐす」終止形に接続するところから「とも」は逆接仮定条件の接続助詞「〜としても」と訳す。

② カ行四段動詞「吹く」已然形に接続するところから「ども」は逆接確定条件の接続助詞「〜けれども」と訳す。

例文の現代語訳と出典

- ① 風が吹いたとしても枝を離れて落ちないように花を綴じつけよ。青柳の糸で。(山家集)
- ② 男も女も互いにはにかみ合っていたが、男はこの女と結婚しようと思う。(伊勢物語)
- ③ 迷惑そうにするけれども、全く酒が飲めないのだから男はよい。(徒然草)
- ④ 千年を過ごしたとしても、一夜の夢のように(短い)気持ちがあるだろう。(徒然草)
- ⑤ 風はたいそう吹くけれども、木陰がないので、たいそう暑い。(蜻蛉日記)

解答

- ① ①ア ②イ ③イ
- ② 現代語訳参照。

アクセス10 接続助詞「に・を・が」で

1 接続助詞「に・を・が」は、いずれも連体形に接続し、以下の三つの働きがある。

- (1) 順接(確定条件)「〜の〜から〜のために」と訳す
- ※ 「が」には順接確定条件の働きはない
- (2) 逆接(確定条件)「〜のに・〜が」と訳す
- (3) 単純接続 「〜と・〜と」と訳す

いずれの働きをするかは、訳を代入して判断する。

例あまりに憎みに、その法師をば斬れ。(平家物語)

↓ 順接(確定条件)

例あまりにも憎いので、その法師を斬れ。

↓ 逆接(確定条件)

例涙が落ちとも思われないのに、(涙で)枕が濡くは

り。

例これを聞くに、うれしきこと限りなし。(竹取物語)

↓ 単純接続

例これを知ると、うれしきこと限りなし。

訳これを聞くと、うれしきこと限りなし。

2 接続助詞「で」は、未然形接続をし、打消接続の働きがある。「〜ないで」と訳す。

※ 打消の助動詞「ず」+単純接続の接続助詞「て」が語源といわれている。